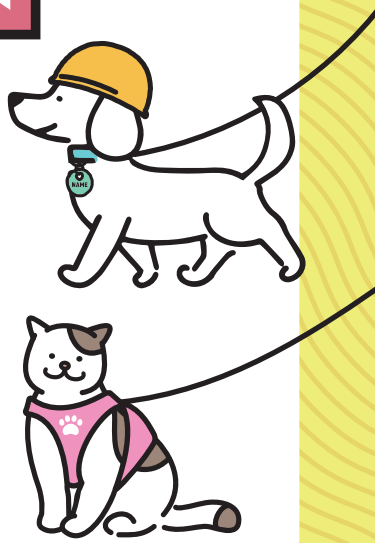
ペットと飼い主の防災対策



ペットのための一番の災害対策は、飼い主が元気でいること!

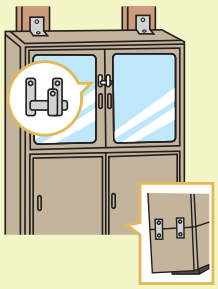
ペットを守ってあげられるのは飼い主さんだけです
飼い主とペットがケガをせず生き残るための対策をしましょう
家が危険なら、迷わずペットを連れて安全な場所に避難しましょう

地震の対策

過去の大地震では、死者やケガの大半が家や家具による圧死と割れたガラスが原因です。特に1981年以前に建てられた家は、耐震診断をして補強しましょう。

あわせて、飼い主もペットもケガをしないよう、高いところには物を置かず、家具が倒れない対策をしましょう。飼い主の寝ている場所、ペットが普段過ごしている場所が地震の際に安全か確認しましょう。

01 住まいの耐震診断と耐震補強
02 家具の固定、転倒防止
03 ガラス飛散防止フィルムを貼る

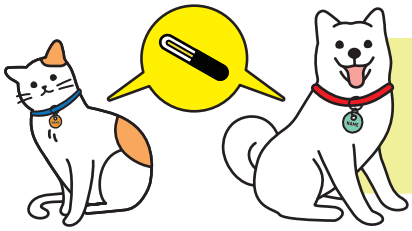


水害の対策

水害や土砂災害は、気象情報で予測できます。そこが危険な場所ならば、命を守るため早期に避難しましょう。避難所での生活はペットにとって必ずしも快適な環境ではありません。親戚や知人宅への避難も想定し事前に準備しましょう。自宅が安全なら在宅避難も考えましょう。

01 ハザードマップで自宅の危険性を確認
02 ペットがいるからこそ、家が危険なら警戒レベル3で早期に避難
03 避難先は複数考えておく、在宅避難や知人の家への避難もあり

新潟県防災局HP「防災に役立つ各種パンフレットを作成しています」もご覧ください >>



ペットが行方不明にならないためには首輪と迷子札

ペットを残して避難したり、はぐれてしまった場合も飼い主のもとに戻れるよう、犬鑑札、連絡先を書いた迷子札やマイクロチップを装着しておきましょう。

ペットと一緒の避難生活を考えた準備をしましょう

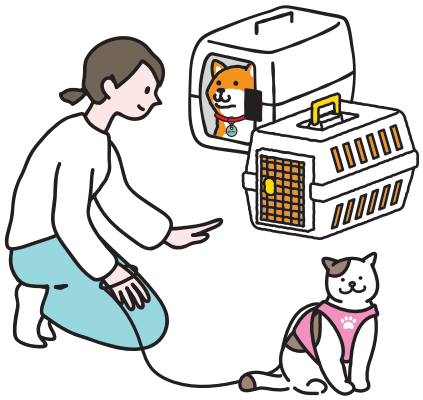
避難生活を想定したしつけと健康管理

避難所の多くはペットを連れての避難が可能ですが、居室内へのペットの持ち込みは禁止です。避難所にはペット用の避難スペースが設けられ、ペットもストレスの多い集団生活になります。避難生活を考えて、飼っているペットのしつけや健康管理をしておきましょう。また、飼育頭数は連れて逃げられる数にすることも大切です。

ペットを入れるキャリーやケージを「安心できる場所」にしておくことで、災害発生時の逃げ場になるだけでなく、避難生活でのペットのストレスを減らすことができます。ケージで吠えずにおとなしく過ごせる動物は、避難所でも受入れしやすいものです。他のペットとの集団生活を想定して、ノミやダニ、感染症の予防や不妊去勢手術をしておきましょう。避難生活では他の避難者の迷惑にならないよう、責任を持ってペットの世話を行いましょう。

01 日頃からキャリーやケージに馴らしておく

02 飼い主と離れても、一人でおとなしく過ごせるようにする



03 飼い主以外でもお世話できるよう、フレンドリーに育てる

04 ノミ、ダニ予防、感染症予防といった健康管理をしておく 不妊去勢手術をしておく

ペット用品の備蓄と避難用具の準備

災害時はペット用の物資も手に入らなくなります。ペットの命を守るため、必要な物を備蓄しておきましょう。**避難所にはペット用品はありません。避難するならケージも含め、自分で備えたものを持参しましょう。**

持ち出し品には優先順位をつけ、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。飼い主とペットの情報を書いたペットの防災手帳をつくっておきましょう。

順位01 命に関わるもの

- ☐ 療法食、薬
- ☐ ペットフード、水（5日分以上）
- ☐ 大好きなおやつ
- ☐ キャリーバッグ、ケージ
- ☐ 洗濯ネット（猫の場合）
- ☐ 首輪、ハーネス（予備も）
- ☐ リード（伸びないもの）
- ☐ 食器
- ☐ ペットシーツ
- ☐ 排泄物の処理用具
- ☐ ビニール袋

順位02 飼い主・ペットの情報

- ☐ 飼い主の連絡先
- ☐ ペットの写真とプロフィール
- ☐ ペットの健康状態、飼育状況
- ☐ 狂犬病等ワクチン接種状況
- ☐ かかりつけの動物病院

順位03 ペット用品、その他

- ☐ タオル、バスタオル、ブラシ
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ガムテープ、新聞紙、マジック
- ☐ お気に入りのおもちゃ

新潟県

このパンフレットに関するお問い合わせ先
新潟県動物愛護センター
TEL.0258-21-5501

新潟県動物愛護センターHP「ペットの災害対策」もチェック！
ペット防災手帳もダウンロードできます。